

氷室作太夫家住居を再発見する プロジェクト かわら版

第 3 号
H29. 10
発行/津島の
宝物ひろめ隊
津島市本町 1
丁目 26 番地

●プロジェクトの内容

津島の宝物広め隊は、まちの地域資源は津島の宝物と考えその魅力を広める活動をする市民活動団体です。

「氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクト」は、津島市の「つしま歴史・文化のまちづくり提案補助事業」の採択を受けて実施しています。氷室作太夫家住居は市の文化財指定を受けていますが、損傷部分があるためか、通常、一般には公開されていません。そこで、氷室作太夫家住居の価値や魅力を再発見（再認識・再評価）し、利活用案とそのため必要な整備案を取りまとめ、市民の皆様始め、一般の方々に発信する活動を進めていきます。皆様のご参加をお待ちしています。

●活動報告 (10/14)

平成 29 年 10 月 14 日 (土) にプロジェクトの第 3 回目を開催し、事務局を含め 9 名の参加がありました。



今回は、津島神社の権宮司である堀田正裕氏を講師としてお招きし、津島信仰と津島御師の活動についてお話をいただきました。堀田権宮司は今でも現役で活動されている唯一の御師であり、各地の津島神社末社を回られている経験から、津島御師の発祥や天王信仰の広がりについて貴重なお話を頂くことができました。

●堀田権宮司のお話～一部を紹介します～

- ・津島御師は、津島神社の神職を兼ねていた。
- ・江戸期までは、三十軒以上の御師がいたが、明治期の神仏分離令により十七軒となった。(氷室作太夫氏は、そのうちの一軒である。)
- ・御師は天王祭などの祭礼でも神社から与えられた役を果たす必要があったが、その財源として全国を廻り信者を獲得する必要があったため御師が生まれた。
- ・御師は全国を廻っていたため、各地に不足しているものや、各地の特産品などの情報を得ることができた。中世津島の発展は湊町としての立地だけでなく、御師の情報網を通じたスピーディーな流通が可能だったからではないか。
- ・津島御師は津島の有力者との姻戚関係を結んでおり、その経済力を背景として、現在の中川区や港区で新田開発が行われた。
- ・津島御師の活動範囲は琵琶湖東岸から関東までだったが、津島神社は大分から青森まで広がっている。信長や秀吉に従って各地に移住した人々が、氏神様として天王を祀ったのではないか。

●まとめ

津島御師の活動はほぼ全国にわたっており、今でも古い神社からは、津島御師が残した御札が発見されることでした。また 3000 社といわれる津島神社の末社ですが、明治以前に天王信仰を行っていた神社はそれ以上だったのではないかとのことでした。しかし御師に関する文書の多くが失われているため、詳しくはわからないことも多いとのこと。氷室作太夫家住居についても、御師に関する貴重な文書を展示できる場とすることで、かつての津島の繁栄を伝える場にできるのではないかと意見が出されました。

●次回のお知らせ

今回は 11 月 11 日 (土) 午後 1 時 30 分より、愛西市佐織公民館館長の石田泰弘氏を講師にお招きして、「(仮)史料から垣間見る氷室作太夫家について」をテーマにお話ししていただく予定です。開催場所は、津島まちや・まちなみ再生機構事務所 (津島市本町 1 丁目 26 番地) の 2 階です。参加希望者は電話 (090-4257-0011) もしくはメール (info@tsushima-machiya.net) で、お願い致します。

つしまおし

「津島御師」とは？

「津島御師」は、津島神社の天王信仰の布教者であり、室町時代から津島天王社の社家と社家の子弟、社家に属する手代（てだい＝使用人）が、神主の許可を得て東国を主体に廻国していました。この活動が近世の津島天王社の繁栄に大きく貢献しました。

氷室作太夫家の古文書から、津島御師の活動をうかがうことができます。

古文書によると、津島御師は、檀家を夏と冬の年二回訪れ、御札や土産物を持参し、時には祈祷をおこない、頼まれれば名付け親などもしていました。津島の御師宅では、参詣の旅や、代参に来た檀家に宿を提供したり、旅費を貸しついたりという世話をしていました。

これらは御師の活動の一部分だと思われませんが、彼らが檀家の求心力強化のために心を砕いていたことが、強くうかがわれます。

（資料：『尾張津島見聞録 津島はこんなに面白い』、『愛知県史民俗調査報告書4 津島・尾張西部』）



シリーズ 氷室家の家屋敷について：「第3回 長屋・塀」

門の横に長屋と塀が続いています。長屋は何度も内部の改造が繰り返されたようで昔の面影をとどめていませんが、かつては客をもてなす補充用の部屋として使用されたと考えられます。

塀も改修が繰り返され、昔の外観がどのようなようであったかはよく分かりません。

（出典：『氷室作太夫家住居パンフレット』）



長屋



塀

今後の開催予定日：毎月第2土曜日 午後1時30分から

第4回 11/11（土）、第5回 12/9（土）、第6回 1/13（土）、第7回 2/10（土）

氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクトでは、Facebook ページで情報等の配信を行っています。

氷室作太夫家住居を再発見するプロジェクト

で、検索してアクセスして下さい。